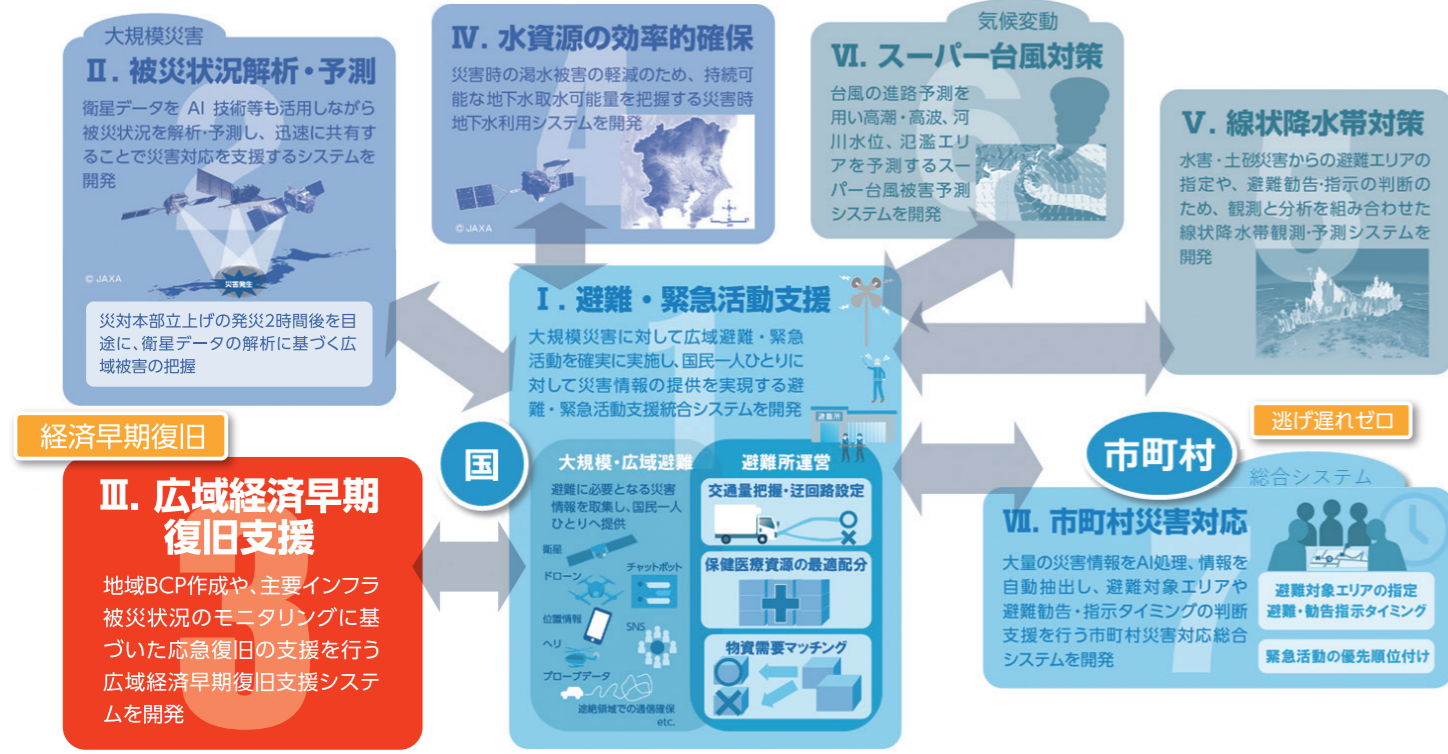


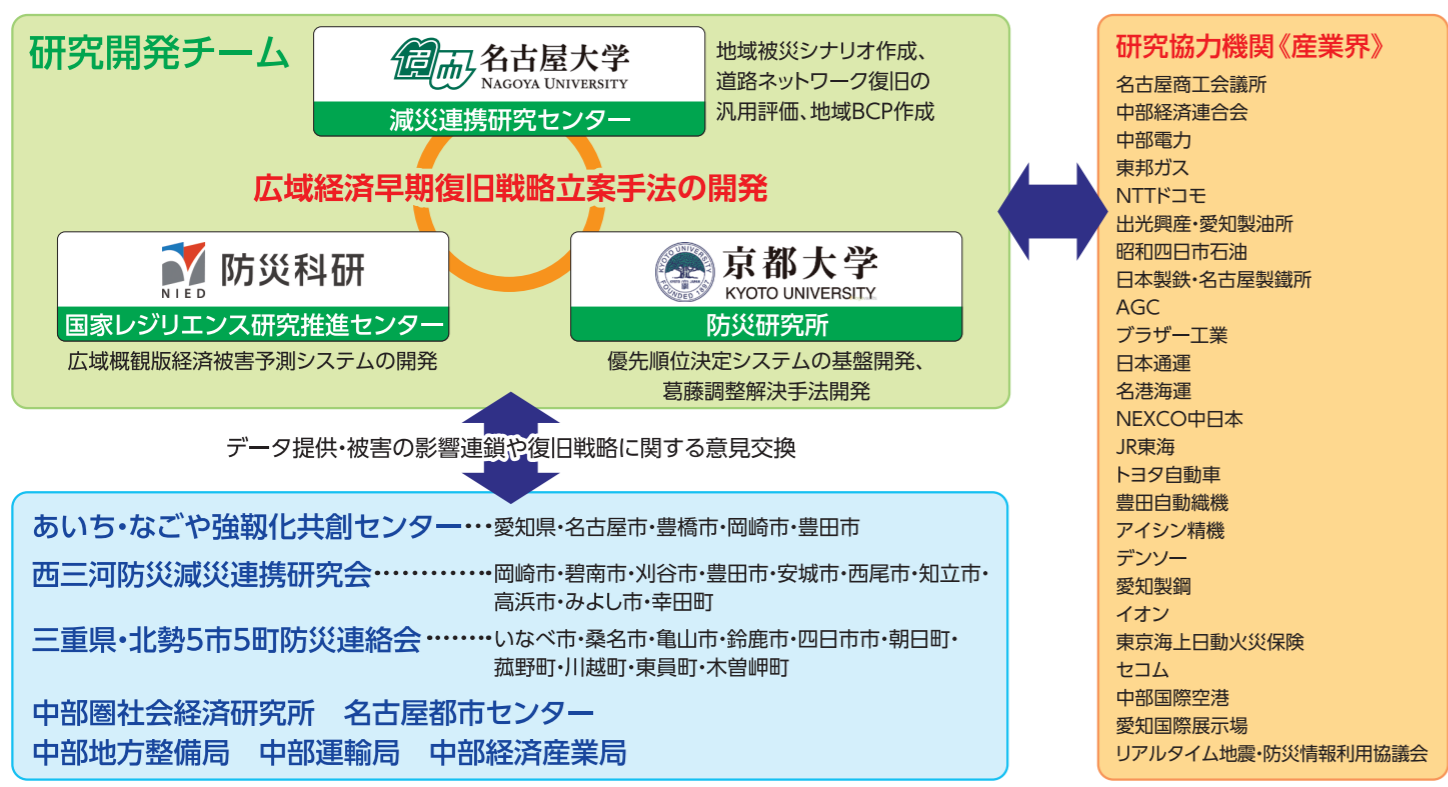
SIP 国家レジリエンス(防災・減災)の強化 全体構想

SIP「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」では、政府の災害対応に関するテーマが6つ、市町村の災害対応に関するテーマが1つ、合わせて7つの研究開発項目が進められています。



- ▶ 災害の予測情報を生成・共有する国向けの避難・緊急活動支援統合システム
- ▶ 国のシステムと連動し地域特性を入れた市町村向けの災害対応統合システム

本テーマの実施体制



産官学協働による広域経済の減災・早期復旧戦略の立案手法開発



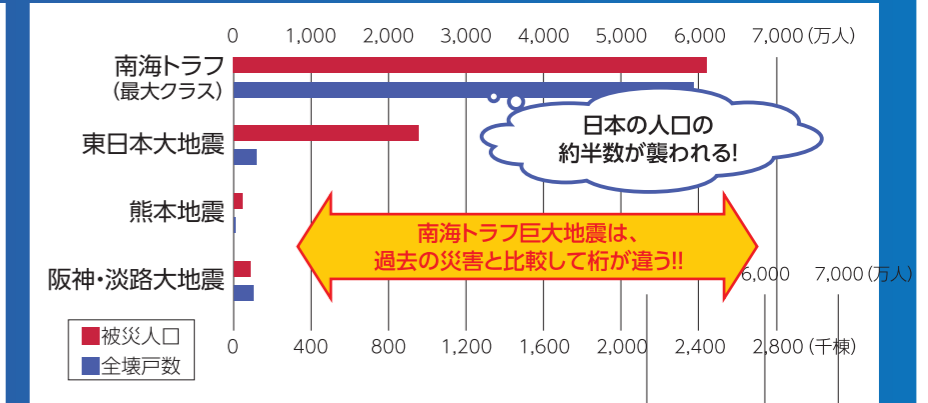
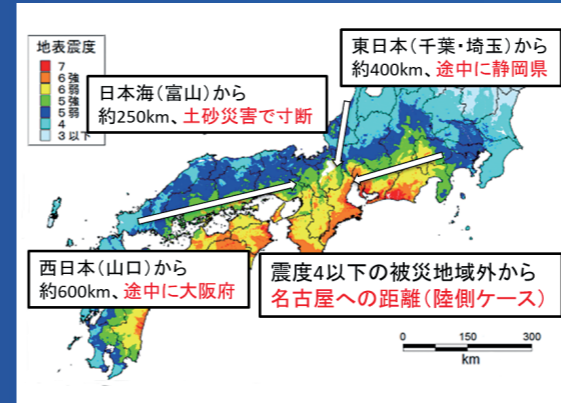
本研究の目的

南海トラフ巨大地震については、考えられる最大規模が発生した場合、死者は23万人余り、経済被害は直接被害額が171兆円、間接被害額が36兆円にも上ると想定されています(2019年度に公表された中央防災会議の試算)。このような甚大な被害を考えると、犠牲者の減少を目指した事前の対策はもちろんのこと、地域と広域の2つの経済的視点から事前準備を進め、事後の経済被害軽減と早期復旧に向けた態勢づくりが、この「国難」を乗り越えるた

めに解決すべき重要課題と言えます。

被災者がいち早く日常生活を取り戻せるようにするために、個別企業のBCPのみならず、“地域ぐるみでの”BCPを作成することにより、広域経済を一日でも早く復旧させることが求められています。

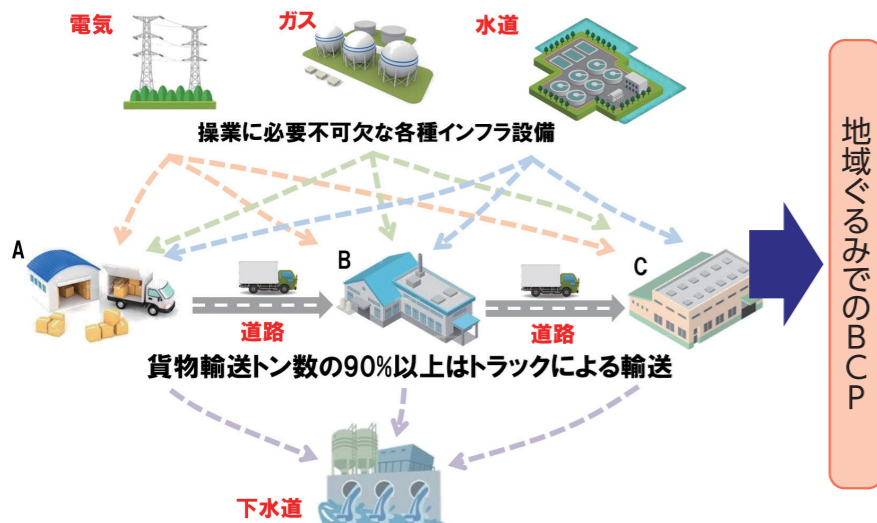
本研究では、これらの課題を解決し、大規模災害が発生した際の広域的な経済への影響を大幅に軽減することを目指します。



くしの歯作戦(発災後7日間程度)以降の道路復旧計画は存在しない。



経済被害の早期回復は、個社の活動・BCPのみでは達成できない。



道路インフラ復旧優先順位決定システムの開発

名古屋大学 地域的視点

- 地域の経済活動への影響評価システム**
テストフィールドの西三河地域を対象に、社会・経済活動を評価するために必要となる基本的なデータを整備(R1年度)
- 道路ネットワーク復旧の汎用評価システム”ArAIS”**
インフラ復旧優先順位付けシステムのための並行時空管理基盤と連携した地域の道路ネットワーク復旧パフォーマンス評価システム(ArAIS)を開発中(R1年度)

防災科学技術研究所 広域的視点

- 広域概観版経済被害予測システム**
広域の視点から経済被害を概観するシステムのプロトタイプを開発中(R1年度)

京都大学 システム情報基盤の構築

- 現実世界と並行世界を統合的に扱う時空間データベース”STeP”**
インフラ復旧優先順位付けシステムのための並行時空管理基盤を開発中(R1年度)

京都大学・名古屋大学

- コンフリクト解決手法**
優先順位決定システムを用いて、道路復旧に関して生じる葛藤を調整(コンフリクト・マネジメント)するためのワークショップを行い、その効果を検証。

地域ぐるみでのBCPの作成・更新

早期復旧のための事前準備



政府現地災害対策本部 中部地方整備局

災害対策本部におけるインフラ・ライフライン復旧の判断を支援

プロジェクト後も上記サイクルを繰り返し実施できるように、**検討の場の構築、検討手法の標準化を図り、あわせて判断支援統合システムの開発を実施。**